

# 電気のふるさと

電源地域ニュース

- 特集 電源地域のサクセスストーリーⅠ  
平成15～16年度 財電源地域振興センター マーケティング調査事例  
**「阿久根文旦」再生への取り組み**  
鹿児島県 阿久根市
- 特集 電源地域のサクセスストーリーⅡ  
住民の生活を守る、住民出資の「道の駅」  
**「ふらっと美山」成功の軌跡**  
京都府 美山町



財団法人 電源地域振興センター

電気のふるさと 電源地域ニュース 通巻一号 平成十七年十月三十一日発行 発行・財団法人 電源地域振興センター



本誌の取材にご協力いただき、ありがとうございました。

## 財団法人 電源地域振興センター

〒107-6011 東京都港区赤坂一丁目12番32号 アーク森ビル11階  
電話 03-5562-9711(代表) URL <http://www.dengen.or.jp/>

(本冊子は再生紙を使用しています)

読者の皆様からのご意見・ご感想を反映したいと思います  
アンケートにご協力をお願いします

# 電気のふるさと

電源地域ニュース

## C O N T E N T S

- Key Person ..... 2
  - 経済産業省資源エネルギー庁 電力・ガス事業部  
電力基盤整備課 電源立地対策室長  
岡野 克弥
- 特集 電源地域のサクセスストーリー I ..... 4
  - 平成15～16年度 (財)電源地域振興センター マーケティング調査事例  
「阿久根文巨」再生への取り組み  
鹿児島県 阿久根市
- 電源地域の政策トピックス ..... 10
  - 平成18年度 電源開発促進対策特別会計  
電源立地勘定概算要求案の概要  
経済産業省
- 特集 電源地域のサクセスストーリー II ..... 12
  - 住民の生活を守る、住民出資の「道の駅」  
「ふらっと美山」成功の軌跡  
京都府 美山町
- センター掲示板 ..... 16
  - あなたの地域の担い手づくり  
最近の研修事業から
  - 【講義】地域を元気にする「コミュニティ・ビジネス」 ..... 16
  - 第16回「電気のふるさとしまん市」を開催します ..... 17
  - 企業の誘致・立地促進を支援します ..... 17
  - ふるさとしまん
  - 国の伝統的工芸品！ 鳴子こけしと鳴子漆器 宮城県 鳴子町 ..... 18
  - 厳選 北信州木島平産 丸大豆生醤油とヤーコン焼酎！ 長野県 木島平村 ..... 18
  - 当センター事業をご利用いただける電源市町村が確定 ..... 19
  - 読者プレゼント ..... 19
  - 人事往来 ..... 19
  - (財)電源地域振興センター会長交代のお知らせ ..... 19
  - 編集後記 ..... 19



鹿児島県 阿久根市



京都府 美山町



### 表紙のことば

鹿児島県阿久根市に隣接する薩摩川内市は、九州第二の河川・川内川が東シナ海に注ぎ込むところに開けたまちです。ニニギノミコトの神話にまつわる可愛山稜や新田神社、美しい海岸線など、自然とロマンが息づく北薩地方の中心都市です。

表紙：川内原子力発電所(九州電力) 総出力：178万kw  
営業運転開始：昭和59年7月(1号機)、昭和60年11月(2号機)

### Key Person



経済産業省資源エネルギー庁 電力・ガス事業部  
電力基盤整備課 電源立地対策室長  
岡野 克弥

電源地域の皆様方におかれましては、日ごろから資源エネルギー政策に御理解をいただいております。この場をお借りして御礼申し上げます。今年度は愛・地球博で沸いた年でありましたが、今を振り返ること三十五年、昭和四十五年の大阪万博のときに、万博会場に原子の灯をというので、実用原子力発電の歴史が始まったわけであり、また同時に、このころが電源地域振興の重要性も高まったときとも言えるかと思えます。ところが日本の順風満帆な高度成長は、昭和四十七年のオイルショックにより思いがけなく軌道変更となりました。

蔵量がありますが、世界全体では四十年で枯渇。そこで、産油国はこぞって石油に依存しなくてもいいようにと、先進諸国からの工場投資を呼び込むことなどを中心として国づくりに励むようになったわけでありました。私はこのことから、プラスの教訓とマイナスの教訓が一つずつ見られるかと思っております。プラスの教訓は、現在得られている資金を元手にして、将来永きにわたり繁栄できるための経済を確立させようとしていること、他方で、残念ながらマイナスの教訓は、工場移転などによる即席での経済発展に過度に依存しているということか、と思えます。

事業を芽とかアイデアベースから起こして地域振興につなげていくという手法は、即戦力ではなく息の長い取り組みとなりますし、これが必ずしもストレートに産業振興につながるような甘い経済環境ではありません。しかしながら、将来の恒久的な地域の発展のためには不可欠なものですので、私たちとしても力点を置いていきたいと思っております。地域には、必ずと言っていいほどいい芽があります。またそれを担っていく人材もいらっしやいます。問題は、いかにその芽を発見し、育ていく状況を作り出していくかということだと思えます。その環境を整備するための財源として三法交付金が用意されておりますし、加えて、(財)電源地域振興センターにおいて実施している振興相談事業やマーケティング事業なども絡ませれば効果的な支援になると思えます。

平成15～16年度 (財)電源地域振興センター マーケティング調査事例

## 「阿久根文旦」再生への取り組み

### 鹿児島県 阿久根市



お問い合わせ先  
阿久根市農政課 TEL 0996-73-1211  
http://www.city.akune.kagoshima.jp/



直径20cmにもなる阿久根文旦の果実

鹿児島県阿久根市は、日本有数の文旦生産地です。阿久根文旦は江戸時代からの特産品ですが、最近では皮のむぎにくさや独特の苦味が消費者に敬遠されることも多く、生産量は減少しつつありました。こうした中、「文旦こそ阿久根のシンボル」との思いを抱く行政や民間企業、主婦のグループが一体となり、全国に発信できる特産品を育て上げようとする取り組みが始まりました。

ここでは、(財)電源地域振興センターのマーケティング調査事業を活用し、高級青果として、さらには「ペースト」に代表される新たな加工品としてよみがえりつつある「阿久根文旦」を紹介します。

#### 阿久根は 全国有数の文旦生産地

阿久根市は、鹿児島県の北西に位置する面積約百三十四平方キロメートル、人口約二万六千人のまちです。「阿久根」は、平安時代に編さんされた「延喜式」にも「英祢駅」として登場する古い地名です。隣接する薩摩川内市には九州電力株式会社川内原子力発電所(一、二号機合計で百七十八万キロワット)があり、九州地方の電力供給に大きな役割を果たしています。

文旦は果実が直径二十センチほどになる大型の相橘類で、

#### 盛況を誇った 特産品が消費の変化で衰退へ

阿久根で本格的な農業として文旦の栽培が始まったのは昭和二十六年(一九五一年)です。戦後のエネルギー転換

学名を「ぶんたん」といいます。昭和四十六年に「市の木」に制定された、阿久根市のシンボルでもありません。阿久根文旦の果実は、土佐文旦などと違って外皮が厚く果汁が少ないのが特徴です。青果は主に贈答用や正月の縁起物として、葉付きを頂点に大型のものが好まれるほか、福岡や北九州の市場では、あらかじめ外皮を取り除いて食べやすくした「むきぶん」という商品も一般的です。加工品としては、皮を砂糖で煮込んだ「ぼんたん漬」が有名で、市内でも複数の業者が製造・出荷しています。

しかしその後、消費者の生活や好みの変化で果物全体の消費が落ち込む中、文旦も例外ではありませんでした。ピーク時には栽培面積二百三十ヘクタール、生産量年間二千トンを誇った文旦も、現在ではそれ

#### 文旦の由来

文旦が日本に到来した由来には諸説ありますが、江戸時代に商用で阿久根に立ち寄った、あるいは漂着した中国船によって伝えられ、その船長の名が「謝文旦」であったことから「文旦」と名付けられたようです。謝文旦は「菜」「白」二種類の文旦を贈ったといわれています。その後、明治初期には、本田小藤太(こつた)氏が品種改良した「こつた文旦(本田文旦)」が広まりました。ちなみに「ザボン」も同じ種類で、謝文旦の「謝文」から転じたものです。

が、現在の特産品開発につながる次のような要素を確認することができました。

#### 要素1 文旦の基礎研究が進んだ

以前から貯蔵法の研究を依頼していた鹿児島大学の伊藤三郎教授(現名誉教授)によって、果肉や外皮、白皮の成分分析をはじめとする文旦の基礎研究が進みました。

#### 要素2 酸味や苦味が課題として認識された

加工品の適正テストを通じて、酸味や苦味のコントロールが課題として認識されました。現在の特産品開発では、酸味や苦味を逆手にとって特徴を出すことに成功しています。

#### 要素3 ペーストのペースができた

ジャム類は特産品開発としてはありきたりで、新たな特産品としてはあまり期待できず、試作品止まりでした。しかし、マーマレードの製作工程でできる「ペースト」こそが、実は文旦の酸味や苦味を



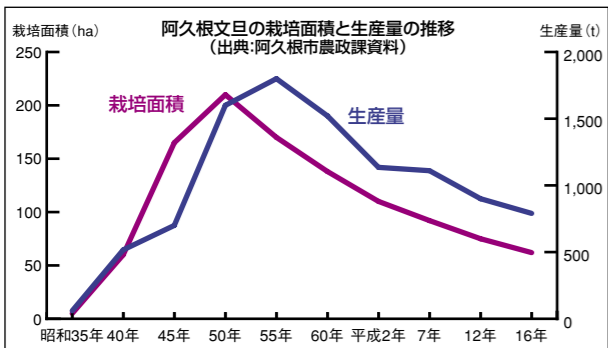
マーケティング調査における地元の中心的存在  
阿久根市農政課 参事補 尾崎信行さん

それぞれ六十二ヘクタール、七百九十トにまで落ち込んでいます。消費者離れの理由は「厚い皮をむくのが面倒」「食べ方が分からない」「苦味が嫌」などが挙げられますが、どれも阿久根文旦本来の特徴なだけに、簡単には解決できませんでした。また、加工品のぼんたん漬はロングセラーとなり親しまれていますが、それだけで大量出荷は望めず、売上は頭打ちとなりつつありました。

#### 今につながる開発の試み

#### 昭和六十一年 「ぼんたん」パラダイス事業

市農政課の参事補・尾崎信行さんは、早くから阿久根文旦の衰退に危機感を抱いていた一人です。消費者離れを防ごうと、市場調査や九州・四



国の産地巡りを通じて品種改良を模索したこともありましたが、しかし、新しい品種は阿久根の風土に合わなかったり農家の「昔ながらの阿久根文旦」へのこだわりが強かったりで根付きませんでした。

昭和六十一年には、市の商工観光課が中心となった「ぼんたんパラダイス建設事業」が発足し、「ぼんたん」パラダイス建設ビジョン」の制定やジャムやマーマレードなどの製品試作が行われました。このときは単年度事業だったため継続が難しく、直接の大きな成果は得られませんでした。

#### マーケティング調査の活用で 特産品開発が大きく進展

ぼんたんパラダイス建設事業の終了後も、尾崎さんは常に「なんとかしなければ」と考え続けてきました。そして平成十五年、(財)電源地域振興センターのマーケティング調査事業を活用する機会を得ます。この調査は、電源三法交付金制度に基づく「電源立地推進調整等委託費のうち電源地域振興指導事業」を活用したものです。尾崎さんの呼びかけに、贈答用の高級文旦を作る生産者の盛永政昭さんや、ぼんたん漬の製造業を営む下

生かすことのできる加工品だったのです。

蘭博光さん、生活研究グループの松山千代子さんらも応援してくれました。尾崎さんは当初「たった一年でうまくいくのか？」と不安でした。十一月には出荷が始まるのに、調査開始が七月なので、検証が行い成果を見出すには時間が足りないからです。単年度で成果を出せなかった昭和六十一年の教訓が頭をよぎりました。そこで、尾崎さんは収穫時期とコンサルティング時期のアンバランスを防ぐため、マーケティング調査事業を次年度も実施できるよう、九州経済産業局に採択要請します。その結果、青果としての文旦の開発とを両輪とする特産品開発は大きく進展しました。

#### (財)電源地域振興センター マーケティング調査事業の経緯

##### ●平成15年度

8月に第1回マーケティング委員会を開催。9月以降、阿久根市農政課を中心に生産者、JA、製造業者などが参加し、青果/加工ワーキングを数回実施。販売PR策の検討や和洋菓子などの試作などを行う。11月に一般消費者を対象とする試食モニター調査を実施。平成16年1月の委員会での取り組みについての検討、報告書の取りまとめなどを実施。

##### ●平成16年度

6月に第1回阿久根ぼんたんマーケティング研究会を開催。年間全7回の研究会を通じ、文旦ペーストを生かした調理・加工品の試作や、一般からの「アイデア大募集」の開催のほか、「じゃっどだれ」などのネーミングや販売方法、生産に向けた地元体制の検討などを行う。他に生ジュースのモニター調査や試作品のPR・試食会なども数回実施。

## 最高級品の青果が 阿久根ブランドを築く

えりすぐりの文旦を作る  
先進農家の意欲的な取り組み

盛永政昭さんは、耕作面積約一畝の畑で高級文旦を作っています。「いい文旦は一目で分かる」という言葉通り、一級品は、なり口（枝につく部分）がきれいな緑色で、果実がまん丸。肌もきめ細かく、柔らかそうに見えます。逆に、傷やむらがあったり、果実が細長かったりするのは格が落ちます。なり口が茶色いのは、果実が小さい時期に害虫



「品質に妥協はできない」と語る盛永政昭さん



手入れの行き届いた阿久根文旦の畑

などの防除が不十分だった証拠です。「作業がなくても畑に出ても、いつでも果実を見えます。薬剤の種類や回数には制限があるので、虫や病気に応じた適期散布が欠かせません」。

早期に摘果を行い、果実が密集しすぎないようにすることも大切です。隣の果実と接した部分が茶色く変色してしまうからです。摘果された果実は「青切り」と呼ばれるぼんたん漬の原料になります。「肥料は、有機を中心にリン

酸成分の多いものを選んでいきます」と盛永さん。ミカンの肥料を応用するなど、試行錯誤を続けています。このほか、木の間隔を広げ、栄養分が行き渡るよう工夫したり、背の低い人でも作業がしやすいように木を低く切りそろえたりと、きめ細かな畑の改良も重ねました。その結果、作業性や日当たりもよくなり、葉の多い良木が育つようになりました。

文旦は「阿久根の顔」  
安く卸すような妥協はしない

果実が多くなる年は、大きさが二回りほど下がるというわけです。安く卸すこともできませんが「せっかくなので高い評価を得たのに、それでは信用を落とします。直販は一度買つてダメなら二度と買つてもらえない。一回一回が勝負なのです。文旦は『阿久根の顔』ですから、いいものだけをえりすぐって出荷しています」と、盛永さんは決して妥協しません。直販の取引先と対等に値決めできるのは、「ほかでは作れない」という自信のなせる

### JAを母体とする株式会社の現状

JAを母体とする株式会社とは

- ①JAがその事業運営上の必要性から設立した
- ②JAが株式（議決権）の全部または少なくとも過半数を保有している
- ③役員構成でJA代表が優位を占める
- ④取引面・資金面でJAと密接な関連を持つ
- ⑤JAの直営的な性格を有する

といった条件を備えた株式会社をいいます。

JAによる株式会社の設立は、広域合併の進展や合併後の事業・組織の見直しを背景に平成以降本格化し、阿久根市以外では山形県天童市の株式会社JAてんどうフーズなどの例があります。具体的な設立目的としては「親組合では事業展開が困難」「組合員の事業二一ズ増大」「土日出勤等特殊な勤務体系への対応」「企業的・専門的経営による収益強化」「親組合の事業効率化・再構築の一環」などがあげられています。

JAによる株式会社の設立は、協同組合の根本にかかわる課題を内在する議論の多い問題ですが、地域農業の活性化・ブランド戦略が求められる中で、今、その存在意義が注目されています。

わざです。しかしその一方で、農業協同組合（以下JA）にも必ずきちんとした品物を出荷します。「中には、黒い斑点の出た果実を青果として出荷する人もいますし、黄色いラップにくるんで売っている店も少なくありません。しかし、それでは阿久根文旦全体の評判が落ちてしまいます」。

夏から秋にかけては、台風の進路に気をもむ毎日です。「最近では、息子が教えてくれた携帯電話の天気予報を活用

わがで、

「最近では、息子が教えてくれた携帯電話の天気予報を活用

### 最高級文旦の出荷は JA出資の株式会社から

盛永さんの文旦は、JAが出資の鹿児島いずみ協同食品株式会社を経て出荷され



農家との信頼関係を元へえりすぐり文旦を出荷する鹿児島いずみ協同食品株式会社 営業課長 濱田洋一さん

ます。現在、文旦は盛永さんからのみ仕入れ、主に鹿児島空港の売店向けに卸しています。営業課長の濱田洋一さんは「空港売店では常に安定した高い品質を求められますが、盛永さんの文旦なら安心して販売できます。共選では対応しきれない細かなニーズにも応えられるのは、株式会社との強みです」と語ります。品質が安定しているため、通常はギフト需要の落ち着きで値が下がる年明け以降も、年内と同じ価格で引き取ってもらっています。

出荷が伸び悩んだ時期には、盛永さんのアドバイスで、ゆうパックに合うサイズの果実を集め、販路を拡大したこともありました。「翌朝いちば

## 消費者への浸透と 売上の確保には 加工品が不可欠

代表格のぼんたん漬は  
産地の誇りが生んだ名産

泰平食品有限会社は、市内で五十年近くにわたり「ぼんたん漬」を製造しています。創業当時、阿久根にはぼんたん漬がなく、一次加工した文旦は大分や長崎の「ザボン漬」の原料として出荷されていた。初代社長は「産地が原料を出すだけではいけない」と一念発起、夫婦で大分の業者に泊まり込んで製造方法を教わり、阿久根に持ち帰りました。当初は火力が足りない

社の機動性を生かして消費者との接点を広げ、メリットをJA本体に還元したいですね。将来はJA側でも選果基準を確立し、取扱量を増やして、生産者により大きな利益を還元することが最大の目標です。

ため水分が抜けきらず、中の水分が溶け出してしまつて返品連続ということもあつたそうです。

原料となる文旦は、薄くスライスして冷凍庫で保存しま



ぼんたん漬製造の傍ら新製品の開発を積極的に進める泰平食品有限会社 代表取締役 下園博光さん



文旦加工品の代表格「ぼんたん漬」

す。解凍後、一晩水にさらして苦味を抜き、砂糖と一緒に水炊きして再度冷凍庫で冷まします。最後に、表面に砂糖をまぶせば完成です。現在は「漬ける」工程はなく、商品名は昔、砂糖に漬けて込んで作った名残だとか。果肉が育つ前の青い果実で作るのが「青切り」で、円形の断面をしています。熟した果実の皮で作ると「舟切り」になり、こちらは文字通り舟形です。最近では、高齢者にも食べやすいように小さく切った製品も販売しています。

「私としては、文旦は加工品

で贈答用の文旦の栽培も行っています。品質の安定と価格とを考えた結果ですが、それだけではありません。最近では兼業農家が増え、畑や作物に十分手をかけられなくなってきたことへの対応でもあります。「道路沿いなどの畑を放置しては、産地のイメージダウンです。そこで、高齢化などで耕作ができなくなった畑を有償で借り上げ、社員二名を専従させて文旦作りを続けているのです」。農繁期には会社からの応援も加わり、すべての作業を自社で行います。その一方、品質の制約が少ない加工用の文旦は農家からの仕入れも継続し、生産意欲を維持してもらうよう配慮しています。



工場ではぼんたん漬の製造が進む

### 農家から委託を受け 文旦の栽培も手がける

泰平食品(有)では、自前の畑

が主で青果は従だと考えています。文旦を使った新しい商品作りが先代から続く当社のテーマです」と語る下蘭さん。健康食品ブームを背景に、オリゴ糖を使った新製品を試作したり、マーケティング調査を通じてせっけんやアロマオイルを試したりと、新製品の開発を精力的に進めています。残念ながら、現在のところ主力商品となるまでには至りませんが、下蘭さんは「文旦特有の香りを生かした商品を作りたい」と意気込んでいます。

## 特産品開発の目玉 文旦ペーストの登場

ぼんたん漬と並ぶ新たな特産品を目指し、平成十五〜十六年度のマーケティング調査では当初、次の条件で開発が進められました。

### 条件1 市の加工施設の活用

阿久根市が所有する農産物の加工施設を生かし、何か新しいものを作れないか。これが加工品開発の出発点でした。



応用範囲が幅広く、販路の拡大が期待される文旦ペースト

### 条件2 文旦を丸ごと使う工夫

舟切りのぼんたん漬では、皮以外は捨ててしまうのもつたいない。丸ごと使ったって何ができるのか。これが次のテーマでした。

### 条件3 ジャム・マーメイドからの脱却

ジャムやマーメイドの「特産品」はどこにでもあり、使い道も限られます。後発での参入は難しいため、新しい特産品が必要でした。

### 条件4 利用範囲の広い製品を作る

ヨーロッパなどでは、柑橘

系のシロップを菓子はもちろん、料理のソースにも使います。用途が限定されなければ、販路も広がります。

その後、シロップ漬けや洋菓子、和菓子など数多くの試作品が作られ

ましたが、その中で実用化に向け注目されたのが「文旦ペースト」でした。糖度五十〜六十まで煮詰めるマーメイドに対し、糖度二十五〜三十で止めたものがペーストです。

開発を進めるうちに、「後に残らない程度の苦味」を出すことと文旦の特徴が生かせることや、果肉と皮の配合による風味の違いも分かかってきました。試作品を検討した結果、汎用品には果肉と皮が一对一、ジュース用には八対二の割合のものが採用されました。皮の持つ苦味の抜き方は、ぼんたん漬の技術を応用したほか、インターネットで調べて、苦味の元となるナリンギン分解する植物酵素「ナリンギナーゼ」を取り寄せました。

ペーストは現在、菓子やソフトクリームのほか、おからを使った総菜などの用途にも利用されています。泰平食品(有)の下蘭さんも「菓子店だけでなく、料理店など幅広い販路が期待できると思います」と、既存の営業網を生かした

## 主婦グループが生産の主役 ペーストを活用した 新たな人気商品も誕生

ペーストの生産は、市内在住の主婦・松山千代子さんを中心とする文旦加工グループ(元・生活研究グループ)が担います。ほとんどが手作業で、七十グラムを生産するのにメンバー九名で二日かかり。平成十七年度の生産見込みは五百〜六百グラム

と控えめですが、原料で一グラム約五十円の文旦が、ペースト一グラムでは千円以上と、付加価値は十分です。「今はまだボランティアに近い状態です



文旦ペーストや「じゃっどだれ」生産の主役 文旦加工グループ 松山千代子さん

### 文旦特有の味の担い手 ～ナリンギンとナリンギナーゼ～

文旦の苦味を生む成分がナリンギンです。抗アレルギー作用や抗酸化性を持つほか、コレステロール代謝や脂質代謝の改善作用を示す研究成果もあり、健康食品や化粧品などに使用されます。

適量のナリンギンは特有の風味で文旦の味を引き立てますが、多すぎると苦くて食べにくくなります。このため、平成16年度の調査では青果や加工品の評価・分析項目の一つにナリンギンを取り入れました。

このナリンギンを分解し、苦味をコントロールするために使われる植物酵素がナリンギナーゼです。文旦加工グループでは、国内の製薬会社から取り寄せています。

### 課題3 パッケージの検討

「じゃっどだれ」は、マーケティング調査を通じ関係者の協力が得られたためオリジナルデザインのラベルを製作できましたが、現状、卸が中心のペーストにはパッケージがありません。今後、小売を行う場合には検討が必要です。

### 先進農家をけん引役に 阿久根文旦を全国に発信

「高齢農家でも一定の収入が見込めるように、盛永さんのような先進農家をけん引役に、普通の農家でもできる栽培や出荷の方法を考え、支援を進めたいですね」と尾崎さん。一方の盛永さんは「販路拡大のための情報収集を、もっと進めてほしいと思います」と行政への期待を語ります。「皆が」そこまでしなくても」と思ったら終わります。常に意識して情報

ことで甘味が出て、賞味期間も三か月に伸びたほか、一週間寝かせることで味もよくなりました。松山さんは「うまくいかないこともありました。文旦の未来を自分たちが担っているという充実感と、商品が形にならなくていく期待感とに支えられていたおかげで、『苦労した』と感じたことはありません」と笑顔で振り返ります。



道の駅「阿久根」の店頭に並ぶ「じゃっどだれ」各種

### 加工特産品の地位を築く ための課題と対策

順調に伸びつつある文旦ペーストや「じゃっどだれ」ですが、加工特産品として育てていく上では、次のような課題もあります。

#### 課題1 生産体制の確立

業務用の大型冷蔵庫がないため、生産量は抑え気味です。ペーストの引き合いに比べ

れず、新規顧客にはサンプル提供にとどめています。設備を持つ企業の協力を得るなど、生産体制を整えることが急務です。

#### 課題2 販路の拡大

市内のホテルなどに置けば観光客への認知度も高まりますが、営業力不足で今のところ参入は困難です。一方、県の特産品協会の品評会では一定の評価を得ていることから、将来性には期待が持てます。



「調査をきっかけに、取り組みを継続することが大切」と語る尾崎さん

を集め、できることをやらなければ。泰平食品(有)の下蘭さんは「他の地域に行くと、地元産の商品があふれていて感心することがあります。一つでもいい、阿久根にも自信を持って売れる商品があれば、後は必ずついてきます。大企業のような短期間での商品化は難しくても、ターゲットを絞り、方向性をきちんと打ち出せば、よい商品ができるはず」と語ります。尾崎さんは最後に、マーケティング調査を通じた地域おこしについて語ってくれました。「調査を行うなら『たった一年では中身は変わらない』と覚悟すべきです。常に地域と付き合ひ、『植物に休みはない。二十四時間営業』という気持ちで。調査をきっかけとして、自分たち自身で取り組みを継続することが、本当の地域おこしにつながるのです。農家の本音を聞いて、背伸びせず、地に元から情報を発信し、盛り上げる姿勢を忘れたくないですね」。

# 平成18年度 電源開発促進対策特別会計 電源立地勘定概算要求案の概要

## 経済産業省

### 基本方針

平成十八年度予算においては、原子力発電をめぐる環境の変化を踏まえ、より一層的確に地域のニーズに対応する必要がります。このため、予算の効率性の向上を図りつつ次の三点に重点をおいた施策を講ずることとします。

- ・高経年化への対応や核燃料サイクルの推進のための交付金制度の活用
- ・原子力発電所の立地の大前提である安全を確保する取り組みの一層の強化
- ・若年層の理解を得るためのエネルギー教育の推進

### 1 原子力発電施設等の地域との共生を図る地域振興

原子炉の高経年化、核燃料サイクル政策の進展といった原子力発電をめぐる状況の変化を踏まえ、高経年化炉と立地地域との共生の実現、核燃料サイクル施設の立地やプルサーマルの実施を促進するた

め、次の措置を講じます。

- ① 原子力発電所立地地域共生交付金(仮称)  
初年度三十五億円(新規)
- ② 長期発展対策交付金相当部  
分の高経年化加算額の増額  
七億円(拡充)

高経年化炉の設置されている原子力発電所の所在する道県に対して、総額二十五億円を交付する制度を新設

### ③ 核燃料サイクル交付金(仮称) 十四億円(新規)

中間貯蔵施設やMOX燃料加工施設といった核燃料サイクル施設の設置や運転ならびにプルサーマルの実施受け入れや運転に、今後数年間に同意した都道府県(市町村分を含む)に対して、同意後運転開始までの期間で総額十億円、運転開始後五年間で総額五十億円を交付する制度を新設

原子力発電所の円滑な運転を確保するための措置の検討

発電電力量を基礎として交付金額が算定される移出県等については、現行の制度では、原子力発電所の運転が停止されている場合でも、これが安全性確保のために行われている場合には、立地地域に責任がないため、立地地域を不利に扱うべきではないとの考えから、平常時と同等に運転が行われていたものと見なして交付金額を算定することとしています。他方、国が安全を確認した後については、本制度を適用すべきではないなどの指摘もなされていることから、本制度の今後の適用の方針について、検討していきます。

### 2 原子力安全・防災・核物質防護対策の確実な推進

① 原子力安全確保対策の拡充等  
平成十五年に抜本的に改革した原子力安全規制の着実な遂行と充実に全力で取り組むとともに、高経年化対策に係る基盤を整備し、安全研究を

### ② 原子力防災・核物質防護対策の推進

原子力発電施設等の防災対策に万全を期すため、オフサイトセンターや防災資機材の整備、防災訓練等に対する支援を引き続き行います。また、核物質防護対策については、原子力発電施設等へのテロ等

飛躍的に充実させること等により、原子力安全対策を抜本的に強化して立地地域の安全に対する信頼の確保、安心の醸成に資することとします。また、原子力安全に係る広聴・広報活動については、原子力安全規制に関する立地地域との直接対話型のコミュニケーションを実現するなど、きめ細かい活動を行い、立地地域をはじめとする国民に対する説明責任を果たします。

の脅威に対する防護対策の確立に取り組みます。

- ・原子力発電施設等緊急時安全対策交付金  
三十九億円(三十九億円)
- ・原子力発電施設等核物質防護対策  
九億円(九億円)

### 3 国民的な理解を推進する広聴・広報活動の一層の効率化・重点化

原子力発電等に対する広聴・広報については、国会等での指摘も踏まえ、既存事業の一層の効率化を図るとともに、文部科学省や地域との連携の下、エネルギー教育などの効果的な事業を一層強力に実施します。

#### ① 学校支援の拡充

エネルギー教育に積極的に取り組む学校を応募・選定し、三年間にわたり支援。十八年度予算要求においては、支援のあり方の見直しを行いつつ、対象学校数を百八十校→二百

十校に拡充します。

- ・エネルギー教育実践校の整備  
二・六億円(二・六億円)
- ② 児童・教師への支援強化  
児童・生徒が親しみやすく、教師が使いやすい副読本を新規に作成。また、教師に対して最新のエネルギー情報を伝えるための情報誌を作成・配布します。配布後の活用状況を十分に把握するため、事後のアンケートを充実します。
- ・教育用副読本・情報誌の作成・配布  
〇・八億円(〇・八億円)

エネルギーに対する教師の理解を深めるとともに、学校現場でのエネルギー教育の実践に結びつけるため、各種教育団体等の協力を得るなどして、エネルギー教育の実践方法に関する研修の機会・内容を充実します。

- ・教職員等説明会  
〇・三億円(〇・一億円)

## 平成18年度 電源立地勘定概算要求の概要

(単位:億円)

		平成18年度要求額	平成17年度予算額	増▲減
歳 出	1. 電源地域振興策	1,349	1,342	7
	・電源立地地域対策交付金	(1,024)	(1,037)	(▲6)
	・高経年化加算額の増額	(7)	(-)	
	・原子力発電所立地地域共生交付金	(35)	(-)	(35)
	・核燃料サイクル交付金	(14)	(-)	(14)
	2. 原子力安全・防災対策	288	220	69
	3. 理解増進活動の充実	49	78	▲28
	4. その他	30	28	2
	政策的経費計	1,716	1,667	49
	周辺地域整備資金への積立(累積額)	137	125	12
経済産業省計	1,853	1,792	61	
文部科学省分	349	371	▲22	
電源立地勘定合計	2,202	2,163	39	

(注) 合計は四捨五入の関係で一致しないことがある。

## 住民の生活を守る、住民出資の「道の駅」 「ふらっと美山」成功の軌跡

### 京都府 美山町



お問い合わせ先  
ふらっと美山(有限会社ネットワーク平屋)  
TEL 0771-75-0190  
http://www4.ocn.ne.jp/~flatmiya/

京都府北桑田郡美山町は、全体の約九十五％を森林が占める、人口密度約十五人／平方キロメートルの山深いまちです。数年前の民間バス会社の撤退、その後のJAの広域合併に伴う店舗の閉店と、車を持たない高齢者は食料品や日用品の買い物にも不自由する恐れが出てきました。そこで、町がJAの各店舗を買い取り、住民有志が一人五万円の出資をして有限会社を設立、営業を引き継ぐことになりました。その代表格「ふらっと美山」は、初年度から黒字を達成するなど経営的にも成功を収め、平成十七年八月には「道の駅」にも登録されています。ここでは、過疎化の進む地域で生活を守るため、JAの店舗営業を引き継いだ住民の取り組みを紹介します。



農産物、加工品、土産物などが整然と並び店内。奥には日用品コーナーも

#### JA広域合併による店舗閉鎖が「ふらっと美山」の出発点

美山町は、京都府のほぼ中央に位置する面積約三百四十平方キロメートル、人口約五千二百人のまちです。美しく豊かな自然に囲まれ、昔ながらの民家が残る「かやぶきの里」として有名です。標高八〇九メートル級の連山の間を流れる由良川には、京都府企業局の大野発電所（水力、一万一千ワット）や関西電力株式会社の和知発電所（水力、五千七百ワット）があつて、近畿地方の

#### かやぶきの里

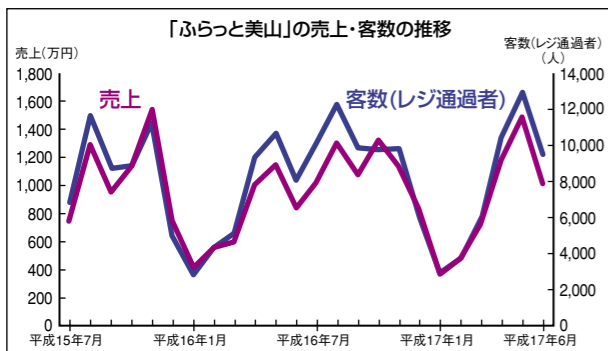
美山町北集落は、現在50戸中38戸がかやぶき屋根建築の集落で、集落でのかやぶき建築数は岐阜県白川村荻町・福島県下郷村大内宿に次ぐ全国第3位です。また、その他の伝統技法による建築物群を含めた歴史的景観の保存度への評価も高く、平成5年、国の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けました。



電力供給に貢献しています。美山町は京都市に隣接し、市街地から約五十キロメートル、車で一時間半ほどと、都市部に比較的近い地域です。しかし、平成六年にJRバスが廃止され、町内の公共交通機関は本数の少ない町営バスに依存しています。京都駅へは途中JRバスに乗り換えて二時間以上、最寄りのJR山陰本線知駅へも三十分以上かかります。美山町農協は平成十二年、南丹地域にあつた九つのJAの広域合併により、京都南丹農業協同組合（JA京都南丹・現JA京都）となりました。合併当初、町民の日常生活を支えてきた美山支店（現「ふらっと美山」）は当面存続す

る予定でしたが、その後の方針転換で閉鎖が決まりました。住民一人五万円の共同出資でJAの店舗を引き継ぐ

JA美山支店は、食料品や日用品をはじめ、生活必需品の購入に不可欠の存在でした。特に、車を持っていなかったり、市街地までの運転が困難だったりする高齢者には死活問題です。そこで、農家以外も含めた住民有志が集まり、自らの生活を守るために一人五万円の共同出資をして店舗営業を維持することを決断しました。集まったメンバーは計八十七名です。その中心は、かつて観光案内所で野菜や土産物を販売していた地域振興会の



人たちが、店舗前で野菜の無人スタンドを開設していたJA女性部の人たちが、「緑のふれあい市場」と呼ばれる朝市に参加していた人たちなどでした。

準備委員会では、経営を軌道に乗せるためには一定の事業規模が必要と考えて、有限会社を選択しました。有限会社法には社員五十名以下という制約があるため、準備委員会で活動していた十八名が社員として出資金を負担し、残りの六十九名は「預かり金」の形で資金協力しました。不足する活動資金は、地域振興



「ふらっと美山」の基礎を築き、積極的な経営を進める有限会社ネットワーク平屋 代表取締役 加地唯男さん

会の販売で得た剰余金でまかないました。

#### 店舗は町が買い取り無償貸与 運営は支援を受けずに自立

こうして「ふらっと美山」を運営する有限会社ネットワーク平屋が誕生しました。店名は、平屋地区の「平」の英語「Flat」（フラット）と、誰でも気軽に「ふらっと」立ち寄れるという意味から名付けました。

店舗を引き継ぐ際、最大の難問はJAの店舗施設の買い取りでした。当初約六千万円とされた評価額は、その後の評価替えもあり、最終的な美山町への売却価格は一億四千万円にもなりました。しかし、施設がなければ何もできません。町も「地域の人たちが自

ら汗をかき、頑張るのなら」と決断を下し、実質的な負担が三割で済む過疎債を活用して買い取りが実現しました。

現在、店舗施設は有限会社が町から無償で借り受けています。「ふらっと美山」に限れば、家賃を支払っても経営は成り立ちますが、町内にはJAから引き継いだ店舗が他に三カ所あり、他店の採算も考慮した結果です。同社の代表取締役・加地唯男さんは語ります。「『ふらっと美山』は、店舗の購入や修繕費の負担など、行政の協力なくしては生まれませんでした。しかし、その後の運営では一切支援を受けず、自立した経営をしています。商売は現場の生の声が大事なので、行政への過度の期待や依存は禁物です」。

#### 在庫ゼロの地元産の品揃えと 町外固定客が好調の要因

町内の旧JA四店舗の中でも、「ふらっと美山」の好調

さは特筆に値します。その要因は、次のような点にあります。

**要因1 国道沿いの立地条件**  
舞鶴自動車道や京都縦貫自動車道が整備され、車の流れも多少変わりましたが、古くから京都と若狭を結ぶルートである国道百六十二号線に面しており、交通量は町内一です。手軽なドライブやツーリングのコースとして、若者にも人気があります。

**要因2 町外を重視した経営形態**  
地域の利便性だけを追求しては、経営は成り立ちません。そこで、町外からの観光客を重視する方針を打ち出し、地域経済への貢献に力を入れていきます。最近の調査では、観光シーズンには町外からの顧客が八割にも上ります。

#### 要因3 地元産中心の品ぞろえ

市場や他地域から「売れる」商品を仕入れれば、利益は上がります。しかし、「ふらっ

と美山」では店舗の個性を發揮し、永く支持されるために地元産を意識した品ぞろえを徹底しています。野菜はもちろん、それ以外にもほとんどが町内か周辺地域の商品です。

#### 要因4 在庫を持たない経営

野菜をはじめ、店内に並ぶ商品の八〇％が委託販売です。店が在庫を抱えずにすむため資金面で有利で、年間一億二千万円の売上に対し、棚卸品はわずか二三百万円しかありません。また、買取り品であっても不良品は返品できなくも作っているため、不良在庫はゼロです。黒字の秘訣は、この在庫ゼロにあると言っても過言ではありません。



国道162号線沿いに建つ「ふらっと美山」

## 新鮮な野菜はすべて地元産 売上の八十割は生産者に

「ふらっと美山」の店内には、地元農家が毎朝届ける新鮮な野菜が並びます。単価が安いため売上に占める割合は十六割ほどですが、新鮮・安心・安全な野菜がずらりと並ぶ光景は、店のイメージづくりに欠かせません。町の認証制度をパスした野菜も店頭並び、「ふらっと美山」の野菜はどれも新鮮で安心」という消費者の信頼感の源になっています。生産者は年一回、収穫と出荷の計画表を提出します。外部から注文が入った場合は、一週間前から前日にかけて店が注文を伝え、販売当日の午前中に納入する決まりです。



季節の新鮮な野菜が「ふらっと美山」の自慢



店内には大小さまざまな卵が並び

生産者は登録制で、もともと無人スタンドや緑のふれあい市場に出荷していた人たちが中心なので、季節の相場もよく分かっている。値決めもスムーズです。野菜を納入に来たある農家は「現金収入になるので、作り手としてもやりがいがありますね」と語り、敬老会のメンバーが長年作り慣れた作物を持ち込むことも多いといいます。

委託販売品の売り上げは、生産者八十割、店二十割の割合で配分します。約十割の人員費とその他の経費を差し引いても、在庫リスクがないため利益が出て、「ふらっと美山」は初年度から黒字を達成しています。一部には「もうかっていいるなら、もっと生産

者に還元すべき」という意見もありますが、加地さんは「適度の利益はこれからの設備投資などに必要」と考えています。その一方で、生産者に対しては、研修会の開催や、商品にはバーコードラベルの無料化などで還元しています。

## 地域の利便性に配慮しつつ 個人商店との競合を避ける

開店当初は日用品は販売していませんでしたが、出資条件に「地域の利便性」を掲げていたため、その後、要望の強かった日用品の販売を始めました。しかし、どこにでもある商品を一緒に並べたのでは観光客は興ざめです。そこで、野菜や土産物を守るスペースと、日用品を置くスペースを明確に分けて、店の雰囲気は損なわないよう工夫しています。

日用品の販売を始めたことで、地域の生活拠点としての役割も担うことになり、地元の良いお客には好評です。しかし、町全体の活性化を図る上では個人商店の努力も尊重

なかつた野菜は「品切れ」です。このやり方を続けてきたからこそ、今の好調があるのです。「もうければ何でもい」では、長い目で見て伸びません。利益は少なくとも、地元産を中心に仕入れを続けていきます。

## 好調な経営を続けるために 将来に向けた課題と展望

新たに道の駅となり、経営も好調な「ふらっと美山」ですが、将来、さらに発展していくためには課題もあります。

### 課題と展望1

#### 新市誕生に向けた安定経営の持続

美山町は、平成十八年一月

者との交流が生まれ、地域の高齢者の生きがいにもなっています」  
養鶏農家 外田誠さん



## 生産者の声

「うちでは生産量の1~2割を『ふらっと美山』に出荷しています。定期収入になること、卵の場合はネット詰めや化粧箱入りなど、売り方を工夫できるのがいいですね。どれもコンスタントに売れるので、JAでは取引が難しい小さな卵でも出荷できます。捨てるものがないように工夫できるので、生産者も勉強になります。売ることを通じて消費

## 美山安全農産物認証制度 「美山安心お野菜」

美山町では、独自に野菜の認証制度を設け、栽培基準を守って栽培された野菜に「美山安心お野菜」の認証シールを添付しています。この制度は、生産者の顔が見える、安心できる、季節感のある農産物を消費者に届けることを目的としています。認証基準は次表のとおり金ランクと銀ランクの2段階があります。

	金ランク農産物	銀ランク農産物
基本原則	化学肥料不使用	減化学肥料
施肥基準	①動植物から抽出した有機質肥料、油粕、魚粕等 ②有機質のみを原料とした混合肥料	①金ランクに同じ ②有機質が窒素成分のおおむね50%以上の混合堆肥
使用推奨堆肥	美山町牛糞堆肥	美山町牛糞堆肥
基本原則	有機JAS認定以外不使用	厳しく限定、必要最小限
農薬基準	除草剤 使用しない 土壌消毒薬剤 使用しない	使用しない 使用しない

を見直す時期に来ています。その点、「ふらっと美山」の考え方は参考になります。

## 道の駅として新たにスタート 社長の信念に基づく店づくり

「ふらっと美山」は、国土交通省への登録を行い、平成十七年八月から「道の駅・美山ふれあい広場」として新たなスタートを切りました。登録しなくても経営は順調でしたが、町の観光拠点として道の駅が一つはほしいということになり、トイレや公衆電話、観光案内センターなどの要件を満たす「ふらっと美山」が

「ふらっと美山」は、国土交通省への登録を行い、平成十七年八月から「道の駅・美山ふれあい広場」として新たなスタートを切りました。登録しなくても経営は順調でしたが、町の観光拠点として道の駅が一つはほしいということになり、トイレや公衆電話、観光案内センターなどの要件を満たす「ふらっと美山」が

一日に園部町、八木町、日吉町と合併し、「南丹市」となることが決まっていますが、合併後も現状通り無償で店舗を借りられるかどうかは不透明です。現在は好調を維持している「ふらっと美山」ですが、将来、家賃を払っても経営が成り立つように、安定した利益を今後も確保し続ける必要があります。

### 課題と展望2

#### 道の駅のメリット活用

道の駅に登録されたばかりで、まだメリットを生かし切れていません。今後は、道の駅としての維持・管理などにも配慮が必要です。登録を機に国による案内標識の整備や各種情報誌への掲載などが進むと考えられるので、「ふらっと美山」も自ら積極的なPRや魅力あるイベントの開催を進め、集客力の向上に結びつける工夫が重要です。

### 課題と展望3

#### 利便性と地域との兼ね合い

道の駅となったことで、今後

飲食スペースの設置や品ぞろえの拡大など、地域の個人商店と競合する要望が出される可能性があります。「ふらっと美山」の「一人勝ち」は望ましくありませんが、地域住民や観光客の利便性を確保する上では、再検討が必要になるかもしれません。事業が順調であればこそその悩みです。

### 課題と展望4

#### 特産品開発への期待

地域に根ざした仕入れを続ける上では、利益率の高い加工品が不可欠です。平成十七年三月からは、加工場の運営が第三セクターの美山ふるさと株式会社から有会社社ネットワーク平屋へと移行されたほか、町でもアイデアコンテストを開催して後押しするなど、付加価値の高い特産品開発への期待が高まっています。

商売を成功に導く上で、何がいちばん大切かという問いに、加地さんは次のように答えてくれました。「私がいちばん大事に思っているのは、店長以下、一人ひと

りのスタッフです。商売の経験が少ない主婦や若者が中心ですが、皆が明るく親切な対応を心がけ、店舗や商品のイメージアップに貢献してくれています。当店では、お客さまへの礼儀など最低限の約束事以外は自由に仕事をしてもらっています。お客さまにほめて頂くことも少なくありません。これからは社員、スタッフ、それに出資者が仲良くやっていけるといいですね。

**■ふらっと美山**  
京都府北桑田郡美山町  
大字安掛小字下23-2  
TEL 0771-75-0190



# あなたの地域の担い手づくり 最近の研修事業から

（財）電源地域振興センターでは、毎年電源地域の長期的・自立的な振興を担う人材の育成を目的に研修事業を行っています。今年度は二十六件の様々なテーマで、先進事例の紹介など実務的な研修を実施しています。

今回は本年八月九日(火)・十日(水)にかけて当センター研修室で行われました研修No.6「住民と行政が一体となった地域づくりの進め方（「コミュニティ・ビジネス」の活用）」の中から、初日の講義要旨をご紹介します。

（財）電源地域振興センター 研修室で実施される今後の研修（予定）

研修テーマ	研修期日	定員
住民と行政が一体となった地域づくりの進め方（NPOとの協働を考える）	平成18年1月	40名
循環型社会形成に向けた地域づくりを考える	平成18年2月	40名

※講師につきましては、現在、調整をしております。

当日は、北海道から沖縄までの全二十七市町村から定員を上回る五十一名の方が参加され、講義やワークショップ（実務・演習）、事例研究など大変熱心な取り組みの多い研修が実施されました。

## 「講義」地域を元気にする「コミュニティ・ビジネス」

「コミュニティ・ビジネス」とは

この「コミュニティ・ビジネス」の定義は「自らの地域を元気にする住民主体の地域事業」です。行政や大企業を中心にならざるまじくくりをするのではなく、住民が主体となって自分たちで事業を起し、地域力の向上を導き出していくことを意味します。

「コミュニティ・ビジネス」は、従来の無償ボランティアとは異なります。小さいながらも経済活動ですので、そこには対価が伴い、責任が生じます。このよい意味での緊張感が継続性をもたらし、



- ① 人間の回復  
自己実現（「働きがい」や「生きがいづくり」）
- ② 社会的問題の解決  
・ ニーズにあった社会サービスの提供
- ③ 文化の継承・創造  
・ 知恵やノウハウの蓄積
- ④ 経済的基盤の確立  
・ 環境負荷の低減、環境保全  
・ コミュニティの多様性や独自の文化を創造  
・ まちの整備

- ・ 遊休の技術や資源が循環
- ・ 雇用の維持、創出
- ・ 地域に対する投資

## 「コミュニティ」の規模

「コミュニティ・ビジネス」は、例えば一人の人間が地域の問題に気づき活動することから始まります。そこに人々が集まり、クラブや協同組合などが生まれ、さらに社会的企業へ発展していきます。

まさに、行政、企業、市民の各セクターの総力戦です。この中には寄付行為などを行う「後援者」、投資経営に参加する「パートナー」、ボランティアで協力する「支持者」、投資や補助金をあつせんする「銀行家」などが含まれます。

地域の問題や課題解決のために実施している活動の意味から、得られた余剰利益は地域に還元されなければなりません。また事業が成長しても売上高、従業員数は適正規模で継続させます。

コミュニティ・エリアは二十分以内で集まれる中学校区ぐらいがちょうどよいかと思えます。職住近接で顔の見える関係の中で等身大の活動や事業をどれほどつく

## 成功への道

事業として取り組むには、企業的经营感覚が必要になってきます。そのためには、ワーカーとマネジャーを分けて育成したり、マネジャーを公募するといったことも必要です。マネジャーは、補助金や寄付金の獲得なども行い、収益事業としての確立を図ります。

このほか、協働による起業や複数の事業による収支バランスの調整、自治体や企業などの積極的なアウトソーシングも成功への重要な要素となります。

まずは三年なり五年と一定期間を決めて、一生懸命やってみることで、結果が出なければ、撤退・見直しをするといった決断の潔きよさも必要です。

【著書・公職等】  
「コミュニティ・ビジネス」単著、中央大学出版部（一九九九年）  
「地域を元気にするコミュニティ・ビジネス」編著、ぎょうせい（二〇〇二年）  
「コミュニティ・ビジネス起業マニュアル」（共著、二〇〇三年、ぎょうせい）等。  
内閣府男女共同参画局女性起業アドバイザーなど多くの公職を歴任。  
<http://www.hosouchi.com/>

# 第十六回「電気のあるさとじまん市」を開催します

「第十六回 電気のあるさとじまん市（主催：財）電源地域振興センター」を十一月十八日(金)から二十日(日)までの三日間、今年も千葉市の幕張メッセにおいて開催します。

「電気のあるさとじまん市」は、電源地域市町村が果たしている社会的役割および豊かな自然や文化を広く紹介するとともに、各地域の特産品の販路拡大や電力消費地との交流促進による電源地域の産業育成・強化の支援を目的に、毎年開催しているものです。

今年度は、二百十九市町村の参加が予定されており、会場内には特産品の展示即売および各地じまんの食べ物・飲み物をその場で味わえる実演販売、郷土芸能を披露する「じまんステージ」などのほか、出展市町村への交流促進のための観光PRコーナーも開設します。ぜひこの機会に電



昨年の「電気のあるさとじまん市」会場風景

源地域についていっそう知っていただき、また、各地の特産品や郷土芸能に触れてください。入場は無料です。皆さまのお越しをお待ちしています。

■お問い合わせ先  
（財）電源地域振興センター内  
電気のあるさとじまん市事務局  
03-5562-9812  
e-mail: jiman-ichi@div.dengen.or.jp  
<http://www.jiman-ichi.com>

# 企業の誘致・立地促進を支援します

（財）電源地域振興センターでは、電源地域における企業立地などを支援しています。

まず、企業に対しては、各種イベントへのブース出展や企業説明会などを通じて電源地域における立地環境や支援制度情報を総合的に提供しています。また、立地意向のある企業に対しては直接訪問し、候補となる電源地域が用意する優遇措置や事業環境等のPR、工業団地情報の提供を行っています。

自治体に対しては、最新の企業立地意向や業界の動向を踏まえ、企業ニーズに合った立地環境整備を図っていたり、製造業を中心とする企業を重点とする企業誘致策を検討する「企業導入実行計画調査」なども実施しています。

このほか、電源地域への誘致活動資料として「電源地域工業団地ガイド」を発行するとともに、企業の希望条件に合った団地の検索ができるサイトを当センターのホームページ上で公開し、広くPRしています。

■お問い合わせ先  
（財）電源地域振興センター 人材育成課  
03-5562-9810  
e-mail: linzai@div.dengen.or.jp

■お問い合わせ先  
（財）電源地域振興センター 企業誘致室  
03-5562-9714  
e-mail: yuuchi@div.dengen.or.jp



見本市会場における出展ブースと説明の風景

## 人事往来

### 経済産業省(8月~9月分)抄

●平成17年8月8日付

氏名	(新)	(旧)
草桶 左信	貿易経済協力局資金協力課長	資源エネルギー庁電力・ガス事業部電力基盤整備課長
後藤 収	資源エネルギー庁電力・ガス事業部電力基盤整備課長	内閣府企画官(政策統括官(科学技術政策担当)付)参事官(原子力担当)付

●平成17年9月6日付

氏名	(新)	(旧)
松永 和夫	大臣官房総括審議官	原子力安全・保安院長
広瀬 研吉	原子力安全・保安院長	物質・材料研究機構理事
薦田 康久	原子力安全・保安院審議官(原子力安全・核燃料サイクル担当)	大臣官房地域経済産業審議官
塚本芳昭	四国経済産業局長	経済産業政策局地域経済産業グループ立地環境整備課長
寺坂 信昭	原子力安全・保安院次長	大臣官房審議官(経済産業政策局担当)
井田 久雄	文部科学省(大臣官房審議官(研究開発局担当))	原子力安全・保安審議官(原子力安全・核燃料サイクル担当)
江越 博昭	大臣官房付・辞職	四国経済産業局長
三代 真彰	大臣官房付・辞職	原子力安全・保安院次長

### 電源立地都道府県知事(8月~9月選挙分)

県名	氏名	当選月日
茨城	橋本 昌	9月12日

### 電源地域市町村首長(8月~9月選挙分)

市町村名	氏名	当選月日
犀川町(福岡)	白石 春夫	8月 7日
印南町(和歌山)	久保井 始	8月 7日
塩山市(山梨)	田辺 篤	8月 7日
隼人町(鹿児島)	津田和 操	8月16日
安芸市(高知)	松本 憲治	8月21日
本別町(北海道)	高橋 正夫	8月22日
白川町(岐阜)	今井 良博	8月23日
山内村(秋田)	佐藤 繁	8月23日
松山町(山形)	松ノ木 藤正	8月23日
高浜市(愛知)	森 貞述	8月28日
美濃加茂市(岐阜)	渡辺 直由	8月28日
北川町(宮崎)	染矢 俊一	8月28日
仁淀川町(高知)	藤崎 富士登	8月28日
西尾市(愛知)	中村 晃毅	9月 4日
いわき市(福島)	柳田 一男	9月11日
東海村(茨城)	村上 達也	9月11日
広川町(和歌山)	白倉 充	9月11日
十和村(高知)	酒井 節夫	9月12日
士別市(北海道)	田崎子 進	9月18日
志賀町(石川)	細川 義雄	9月20日
知多市(愛知)	加藤 功	9月25日
下郷町(福島)	湯田 雄二	9月25日
北橋村(群馬)	木村 栄一	9月27日

## ふるさとびまん

### 国の伝統的工芸品！ 鳴子こけしと鳴子漆器

#### 宮城県 鳴子町

鳴子町は宮城県の北西部に位置し、千年以上も前から湯治場と栄えてきた温泉の町です。四季の変化を楽しめる鳴子峡や日本有数の酸性湖「濁沼」など見どころも多く、訪れる人々の心を魅了しています。

鳴子町では、豊かな自然に恵まれた暮らしの中から、これまでになくさんの手作りの品が生み出されてきました。中でも「鳴子こけし」と「鳴子漆器」は、国の伝統的工芸品に指定されており、毎年九月の第一土・日曜日に「全国こけし祭り」、「鳴子漆器展」が開催され街中が賑わいます。

「鳴子こけし」は宮城伝統こけしの一つで、首を回すとキュキュと鳴り、胴がどっしりとして清楚で優しいな表情が特徴です。こけしは東北地方の温泉地を中心に、厳しい氣候風土から生まれ、子どもたちの健やかな成長を願い木地師たちによって作られてきました。現在でも数多くの工人達が伝統を守りながら表情豊かなこけしを作っています。



鳴子漆器



鳴子こけし

また、「鳴子漆器」は江戸時代の寛永年間の創業と伝えられ、岩出山藩主伊達家の家臣を京都に派遣し、塗りの技術を修得させたことから始まったといわれています。現在は櫛をはじめ、枳、桑などを材料に椀、盆、膳を作っています。「鳴子漆器」の塗りの手法としては、伝統的技法を生かした木地呂塗りや拭漆塗りをはじめ、変わり塗りともいわれる竜文塗りなどがあります。

#### ■お問い合わせ先

鳴子町役場 観光農林課  
0229-821-2026  
<http://www.town.naruko.miyagi.jp/>

### 当センター事業をご利用いただける電源市町村が確定

(財)電源地域振興センターの事業をご利用いただける電源市町村が、このほど確定いたしました。事業の対象となる電源地域は、建設準備中・工事中・運転中の発電所などが所在する市町村とその周辺市町村です。平成十七年四月現在、このような電源地域は、全国に九百十八あり、全市町村の約四割を占めています。事業がご利用いただける具体的な市町村についてのお問い合わせは下記までお寄せください。

#### 電源地域の主な要件

	認可出力	範囲	工業集積度
原子力	35万kw以上	所在市町村およびその周辺市町村	8未満
水力	1千kw以上	所在市町村	
地熱	1万kw以上	所在市町村およびその周辺市町村	
火力(沖縄県に限る※)	8万kw以上	所在市町村およびその周辺市町村	

※平成15年改正前の発電用施設周辺地域整備法(旧整備法)により地点指定されている火力発電施設(沖縄県を除く)の所在市町村およびその周辺市町村は引き続き対象。

#### ■お問い合わせ先

(財)電源地域振興センター  
企画・情報管理課  
03-5562-9730  
e-mail:kikaku@div.dengen.or.jp

## ふるさとびまん

### 厳選 北信州木島平産 丸大豆醤油とヤーコン焼酎！

#### 長野県 木島平村

丸大豆醤油は、有機減農薬栽培の木島平産大豆と小麦、村内の内山地区の名水「龍興寺清水」を主原料としており、天日塩とともに七尺の杉おけで仕込むという伝統的な技法で、冬の寒い時期から長期にわたって天然熟成した醤油です。木島平の清らかな空気と肥沃な大地が生み出す厳選素材、そして匠の技の絶妙なコラボレーションを是非お試しください。

また、丸大豆醤油とともに、人気を博しているのが、ヤーコン焼酎です。ヤーコンは、南米アンデス地方原産の植物で草丈一・五メートルになるキク科の野菜です。比較的病害虫に強く、無農薬(土壌消毒・除草剤も不使用)で栽培しています。中にはさつまいもに似た芋ができて、シャキシャキした梨のような食感です。フラクトオリゴ糖、食物繊維、ポリフェノールを豊富に含んでいますので、腸内の善玉菌を増やし、腸を活性化させ便通の改善に効果があるといわれています。生食はもちろん



丸大豆醤油  
1ℓ 470円(税込)

ヤーコン焼酎  
720ml 1,260円(税込)  
1.8ℓ 2,310円(税込)

ん、煮物、揚げ物、野菜ジュースなど調理法はさまざまです。木島平村では、三年ほど前からヤーコンの栽培を始めており、この地中にできるヤーコン芋を原料にして本格焼酎「ヤー魂」(乙類)を、魂を込めて作っています。さっぱりした飲み口と、ほのかに香る甘い香り

#### ■お問い合わせ先

木島平村役場  
産業課有機の里推進係  
0269-821-3111  
<http://www.kijimadaira.jp/>

### (財)電源地域振興センター会長 交代のお知らせ

平成十七年六月二十九日開催の第三十七回理事会において、勝俣恒久理事(電気事業連合会会長)が第七代会長に就任いたしました。



会長 勝俣 恒久

#### 【編集後記】

「電気のあるさと」には、豊かな自然、山海の幸、由緒ある伝統文化、そして何よりもこれらの資源をひたむきに守り続けている人々があります。そして、各地域が試行錯誤を繰り返しながら、「地域活力の向上」に全力で取り組んでいます。今号の特集で紹介した鹿児島県阿久根市、京都府美山町の皆さまもそういった方々です。取材に対しては悠然と応えていただきましたが、無から有を生み出し、さらに点を線に変えていくのは、本当に強い信念がなければできないことでしょう。皆さま、ありがとうございます。

本誌では、皆さまの町の地域振興に関する話をお待ちしています。これからの試み、成功、失敗など、どんなことでも結構です。そして読んだ方が何かヒントを得られるような誌面になるよう私たちが精一杯頑張りたいと思います。(K)